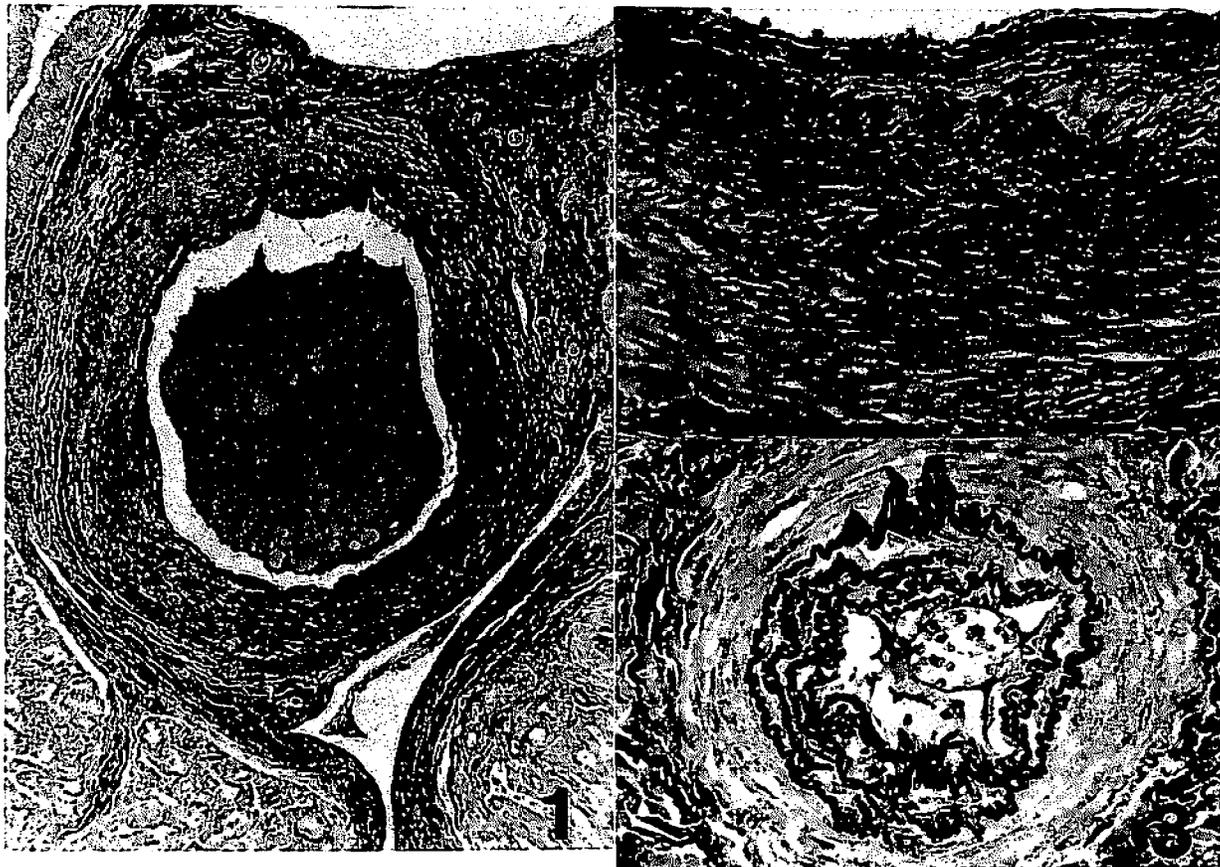


牛乳房の血管

東京農工大学農学部家畜病理学教室出題 第26回獣医病理学研修会No.449



動物：ホルスタイン種，雌，6歳半，乾乳期。

臨床・剖検所見：剖検約1ヶ月前に本学に搬入された健康牛で，肉眼的には，乳房を含めて，本標本における変化（血管）と直接かかわり合いがあると思われる他の所見はみあたらなかった。

標本：剖検時摘出された乳房はSchlesingerの方法により，両側乳腺動脈より生理的食塩水を注入して灌流・造影剤注入・ホルマリン固定・Xeroradiographyによる血管造影を実施した。

組織所見：提示した乳腺組織には腺胞への僅かな好中球浸潤，剥離上皮が部分的にみられたり，小リンパ球集簇が散見される以外，極だった変化はみられなかった。興味をひかれたのは，H-E染色で血管壁の肥厚または中膜の平滑筋層の配列の乱れがみられた動脈壁であった。Elastica van Gieson染色下で観察するこの動脈管壁には弾性線維配列の強い乱れがみられ，それらの弾性線維は構築を失い，血管壁全層にわたって分散，破碎，一部

消失する像が，また当該部の膠原線維の増生がしばしばみられた（写真1，EVG染色，弱拡大）。これらの変化は主に血管分岐部近くに多く観察された。また，内弾性線維に相当する弾性板の多層化，平滑筋細胞の増生，膠原線維の増加が部分的に観察された（写真2，EVG染色，中拡大）。

小あるいは細小動脈壁にも，内弾性板の多層化現象，同部における膠原線維増加，平滑筋細胞の新生像が各所に観察された（写真3，EVG染色，強拡大）。

これらの動脈は動脈硬化性変化とされている子宮動脈および卵巣動脈の変化と同様の変化と考えられ，機能的には泌乳性動脈硬化症として位置づけられるものと思われた。しかし，この変化は乳腺における生理的な血管変化とも考えられ，狭義の中膜硬化症とは区別する必要があり，次のように診断した。

病理組織診断：乳腺動脈における線維弾性線維増生による中膜硬化性変化。